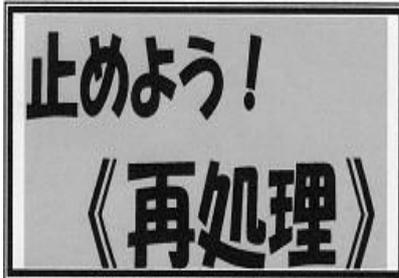


**三陸の海を放射能から守る  
岩手の会** (略称) 三陸の海・岩手の会  
郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ 《再処理 / 岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》  
2022(令和 4年)  
11月24日  
第238号  
編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

千島・日本海溝巨大地震の規模を表す **Mw (モーメントマグニチュード)**  
中央防災会議は **Mw9.1**、日本原燃は **Mw9.0** で評価!

**中央 六ヶ所 敷地は震度6強 (830~1500ガル) と予測。**  
**防災会議 再処理工場の敷地は震度6強 (830~1500ガル) と予測。**  
**設計基準地震動は Ss700ガル! これで耐えるのか?**



**10・26 省庁・全国市民・議員の院内集会**

**山崎誠衆議院議員、質問主意書提出**

(衆質 209 第 19 号) 提出 2022 年 8 月 3 日

**質問** 内閣府は 2020 年 4 月「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震検討会報告」を発表し、再処理工場のある六ヶ所村で起こりうる震度は「6強」と示した。原子力規制委員会の第 41 回技術情報検討会 (2020 年 5 月 11 日) で「再処理工場は安全と確認」としたがその根拠は何か、震度 6 強に対応すべきではないか?

**政府答弁書に「震度 6 強」への回答なし**

政府答弁書受領 2022 年 8 月 15 日

規制委員会の第 41 回技術検討会が「再処理工場が安全である」と判断した事実はない。また同検討会の結論が規制委員会の決定となるものでない。今後規制に反映すべき新たな知見が得られた場合には対応を検討することとなる。

\*震度 6 強に耐えるかどうかは答えず。

一〇月二六日、衆議院議員会館大会議室で、脱原発・核燃サイクル政策実現全国ネットワーク (加盟五二団体等から約一〇〇人が参加し、「原発と核燃サイクルの中止」を掲げて、省庁・全国市民・議員による院内集會が開催されました。基調報告では「日本は地震など自然災害だけでも大被害、さらに核災害は絶対にご免だ。もともと強く訴えよう」と提起され、討論では参加者から、「福島原発事故などなかったかのように原発回帰策に舵を切ろうとする岸田政権の無定見・無責任について厳しい批判がなされました。特に本會が提起した「再処理工場の震度 6 強の地震対策」を中心に報告します。

**技術情報検討会はどうに判断したのか?**

二〇二〇年四月、内閣府は日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震検討会報告を公表しました。これによると、日本海溝での巨大プレート間地震により「六ヶ所再処理工場敷地は震度 6 強」との予測が出されました。この事から私

の市民と担当官の院内集會において政府に「再処理工場が震度 6 強の地震に耐えられるのか」との再審査を要請しました。そして市民集會に出席した民主党山崎誠衆議院議員は私たちの質問案を受けて特別国会開催中の八月に左上のような質問主意書を提出し、政府答弁書を受け取りました。

**第四一回技術検討会  
は、日本海溝巨大地震  
に再処理工場は安全。  
審査不要の判断?**

問題は 原子力規制委員会四一回技術情報検討会では、日本原燃の Mw9.0 のプレートの間地震評価を基に再処理工場の安全を確認し、特別な耐震審査は不要と判断したとすることです。

**中央防災会議は  
Mw9.1 と評価**

ここには見逃せない重大問題があります。

# 原子力規制委員会は中央防災会議の 評価を尊重し再審査せよ!

①中央防災会議は震源の予測をマグニチュードMw9・1で評価していますが、日本原燃は3・11地震の気象庁評価のMw9・0で評価しています。中央防災会議は、米国の地質調査所の評価値を使用し「0・1」高い地震のエネルギーを基に予測しました。Mw9・1はエネルギーにしてMw9・0の約1・4倍の大きさです。

②中央防災会議は公共施設などの耐震は「震度6強以上の揺れに対しても十分な安全性を確保できるもの」とするよう示唆しています。  
\*青森県の独自審査では「六ヶ所村では最大震度7の地点もある」としています。

すなわち国民の安全を守るべく中央防災会議が六ヶ所再処理工場を襲う巨大地震の震源のエネルギーを「Mw9・1」としたのに対して、事業者日本原燃

は「Mw9・0」で評価したという事実が判明しました。

市民集会での

『中央防災会議の①、②を尊重して原子力規制委員会は再審査を行うこと』との要請に対して、出席の原子力規制庁担当官(課長補佐)から「技術情報検討会では再審査しないと結論が出ています」との回答がありました。

しかしこの発言について本会報告者から、「山崎議員の質問主意書への政府答弁には、『技術情報検討会の確認は原子力規制委員会の決定事項ではない』とある。再審査しないという決定は、「いつの会議で、どんな理由でなされたのか?」との反問がなされ、担当官は答えられなくなりました。会場から「再審査せよ」との抗議の発言が相次ぎました。

また規制委員会は『防災会議のMw9・

1』、『事業者原燃のMw9・0』のどちらの数字に基づいて耐震を考えているのか? この問題についても担当官は明らかにせず、「立场上再審査するかどうか答えられない」との発言がありました。

参加者の「再審査を求める声を上司に伝えてほしい」との発言に拍手がおこりました。

山崎誠議員、国会質問で再審査を求める

コロナ禍で順延され、やっと開催された今回の院内集会には全国から鬱積した声が寄せられました。これを受けて山崎誠議員は「原発や再処理に反対する皆さんの声を真摯に受け止め、全力で国会での質問に取り組みたい」との発言がありました。

# 講演 使用済核燃料プール火災の恐怖

厚方橋研究室 田窪雅文氏

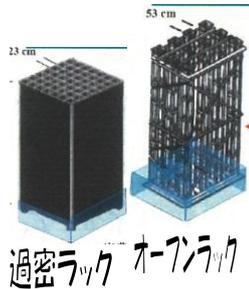
今回の集会で「使用済み核燃料の恐怖」というテーマで研究者の田窪雅文さんの講演がありました。副題は『教訓・五年以上プール冷却の使用済み燃料は自然対流空気冷却の乾式貯蔵へ』というものでした。

福島原発事故の恐怖を体験した私たちにホンの少し希望が見える情報です。

## 危なかった4号機

講演ではまず福島事故原発4号機の使用済み核燃料プールの危機について、冷却水を失えばジルコニウム火災が起こり大災害になったという説明がありました。3号機から水素がパイプを伝って建屋に入り爆発し屋根やプールを破壊し崩落の危険に落ち入り冷却水が抜けそうになった。シユノーケル消防車で必死に水が注がれ、日本中が緊張し見守りました。幸いに崩落せず、二〇一四年一二月に使

用済み核燃料全部の引き出しに成功し、日本中安心しました。過密に積み込んで危険だ。



右は使用済み核燃料をプールの冷却水へ入れる時の収納ラックです。満杯に近づいた現在の冷却プールに更に収納するため、「過密ラック」を使うようになってきた。ラック内の隔壁を薄くし、その

3・11福島事故の汚染圏  
2011/3/15  
避難人口: 8万8000人  
面積: 1100km<sup>2</sup>

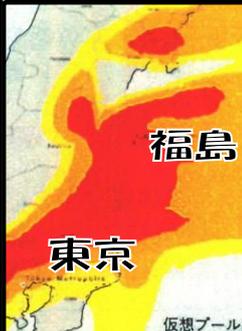


分多く収納出来る。中性子遮断のホウ素添加のステンレス鋼材で補強しているとか。そんなにまでして過密に詰め込んで、今でさえ地震に弱い収納プールの重量が増すばかりです。

## 福島原発事故の恐怖を語り継ごう。

左の地図は3・11直後に作られた福島原発からのセシウム137の汚染についての予測図です。危うく東京や名古屋も全員避難です。4号機プールが火災にならなかつたのは、幸運にも水が入っていて冷却が維持されていたからと言います。(尚)講師・スライド資料から

四号機プール仮想火災発生による汚染予測図  
2011/3/19想定  
(陸地側への風の目)  
避難人口: 2900万人  
面積: 2万5000km<sup>2</sup>



下のコラムのデータは講師資料から。『プルトニウム』(緑風出版) P118も参照。  
◆セシウム137汚染。黄色は0.5 MBq/m<sup>2</sup>以上、茶色は1.5 MBq/m<sup>2</sup>以上、赤色は4.5MBq/m<sup>2</sup>以上です。  
◆日付の日の風速・風向からの汚染区域と避難民数を想定。